

進路だより 淡 佐 浜

Vol.2

令和6年7月18日発行
福島県立原町高等学校進路指導部

◇進路ガイダンス第69号が発行されました！



進路ガイダンスが発行されました。進路編では、大学入試とは何か、そのスケジュールをはじめ、学校推薦型選抜や総合型選抜の手続きについてなど具体的な情報が盛りだくさんです。また、昨年度の指定校の情報、卒業した先輩たちの共通テストの得点状況なども知ることができます。合格を勝ち取った先輩が書いた合格体験記も参考になります。ぜひ、この夏熟読してください。

◇7月5日に講義ライブを開催しました。

79名の生徒が参加しました。参加者の感想を一部紹介します。

東北大学医学系研究科 大和田先生「医学／地域／キャリア教育」

・私は、今回の講義を聞いて、医療では、現場で働くだけでなく研究という面でも関わることができるということに改めて学んだ。私は元々研究にはあまり興味がなく、どこかで「自分ではできないだろう」とか「自分はむいてない」などの否定的な考えを持っていたが、日々の日常を疑い、それが正しいのかを確かめていくというプロセスが難しそうだけどとても面白そうだし楽しそうだなと感じることができた。これらから医療系に進みたいと考えていく中で、あきらめそうになったりすることもあるが、大和田先生が仰っていた「自分の可能性に蓋をしない」という言葉を思い出して頑張りたいと思い直すことができた。



・人の脳は重さやしわなどで頭の良さや性格など変わらなくて、ほとんど同じであることを知ることができた。賞をとるような人たちは、あきらめずに研究に取り組んだからとることができて

いると知った。また、F-REIは、東日本大震災からの復興や世界と比べると論文の数やインパクトが少ない日本の科学技術の向上のために作られたことがわかりました。福島だからこそできる研究がロボットや農林水産業、エネルギーなど多くあることを知りました。今日の講義でF-REIの研究に興味を持ちました。

東北大学工学部 竹田先生「材料科学／金属／レアメタル」

・鉄ってなんだろうと考えたときに、普通に考えると資源、固いものとかでくるけど、表面ではなくて中身を知ってから一から伝えられることが新しい発見になった。分からないものは、意味を知ってから考えて追求していくと面白いんだなと感じた。将来、どんなときに役立つかを知って勉強しようと思った。



・講義を受けるまであまり興味はなかったけど、講義を聞いて普段はあまり考えることのない金属について考える良い機会になったと感じた。ゴミの山などは汚いなどのイメージがあるが、見方を変えれば希少な資源もあり、それらを有効に活用していくことが大事と聞き、ものの見方を変えることも大事だと思った。エネルギー消費や環境への影響も配慮しながらリサイクルを進めていくことが大事なので、私も、自分にできることはこれからもしていきたいと思った。

福島大学地域未来デザインセンター 江尻先生「地域未来デザイン／ソーシャルデザイン」

・今回の講義を聞いて、アントレプレナーシップの捉え方やスタートアップについて少し理解することができた。また、デザイン思考については、グループワークで実際に考えてみることで理解が深まった。今後、どんな人がどんなことを望んでいるか、を考えるときに活用してみたいと思った。冒頭で聞いた、世界競争力ランキングやジェンダーギャップ指数を見てわかるように日本が停滞している現状を少しでも変えるために自分でできることを考えようと思った。



(講義ライブ感想続き)

・他の人の立場で考えて、こんなもの、店があったら便利だろうなという事をみんなで意見を出し合うことができ、新たに創造する力を身につけることができたと思います。私の班では、作ったキャラクターがこんなこと思ってそうだなという考えが一致していた部分が沢山あってびっくりしました。他者と一緒に協働して何も無い所から新たなものを生み出すのは楽しいと思いました。

会津大学コンピュータ理工学部 西館先生「現代社会と情報科学／コンピュータグラフィック」

・情報科学についてぼんやりとしたイメージしか持っていなかったが、暗号の解読や崩落した橋の状況再現など、様々な情報を集約し、プログラミングなどを利用して実際に行うのが難しいことを解析するという考え方が非常に興味深かった。自分たちも授業でプログラミングなど情報科学の周辺知識に触れているので、今後自分で学びを深めていきたい。



また自分の進路にも通ずる部分があるので、更に興味をもつことができ良かった。

・今回は暗号やシミュレーションなどの情報技術が昔から今までどのように使われていたのかを学ぶことができた。メアリーの暗号やカーボンナノチューブなど実例を元に学ぶことができ、特に橋の崩落の件では命にかかわることにもシミュレーションを活用して解決することができるのだと改めて知った。今後更に情報技術は社会で役立つ場面は多くなると思うので、自分で調べたりして学びを深めていきたいと思った。

☆ 蛍雪時代 8月号が発売されました！進路指導室にて来て読んでみよう！

➤「蛍雪時代」とは？

1932年から、日本全国の受験生へ“広く・公平な情報を届ける”ために刊行されてきた日本で

唯一の大学受験専門の雑誌です。

➤どんな人が読むといいの？

受験を志す全ての人に読んでほしい雑誌です。受験生（3年生）はもちろん、1・2年生もとても参考になる内容が書かれています。また、先生や保護者など、それぞれの視線の先に「大学」がある人に向けて書かれています。

➤8月号の内容

【特集1：新課程入試に勝つ！夏の学習&生活】・【特集2：「失敗学」 受験の失敗から学べ！】・【共通テスト「情報I」最速攻略法】・【シリーズ知の探究者（葛西薫：アートディレクター、東京造形大学客員教授／多摩美術大学客員教授）】・【蛍雪合格塾「英語／数学／漢文」】などなど。

こんな人にオススメ。。

「苦手分野多すぎて、一体何から勉強したらいいんだ!?!」、「うわあ！ご褒美タイム延長しすぎて1日オワタ!」、「不安だ！不安だ！不安だああああ!」
という3年生

「先輩も合格してたし、勉強は部活引退してからやろう!」、「夏休みだから無限に寝れるわ〜♡」、「志望校決まらない！志望校決まらない！志望校決まらないいいいい!」

という1・2年生

他にも、「保護者も一緒に乗り越える！夏の受験生に効くサポートと寄り添い方（執筆者：斎藤憲治先生（東京工業大学 教授））」というコーナーでは、親子関係の適切な距離感や夏休みのサポートと寄り添い方について、保護者が受験生と一緒に乗り越えるためのアドバイスが掲載されています。例えば。。

親子関係は、監督と放任の両方が必要 ・重要な話の前に、まずは日常的な雑談を ・適度なおせっかいは子どもの支えになる ・やりがいや嬉しさを感じられる夏休みに

蛍雪時代は進路指導室南口入って左に置いておきますので、手に取ってみましょう。また、自分で買って心が折れそうな時などに読み、お守り代わりにするのもよいでしょう。



一緒に夏を乗り切ろう！